就職活動応援特集

若手・中堅社員が語る

挑戦を後押しする会社

三機工業
環境システム事業部
エアロウイング部エアロウイング課課長補佐
廣瀬 智昭さん

■環境貢献の一役を担う仕事

小さい頃から環境保全への貢献ができる仕事に憧れがあったこともあり、福井工業高等専門学校を卒業後は、長岡技術科学大学に編入学しました。大学では、環境システム工学を専攻し、廃棄物処理や水処理の研究を行っていました。今の仕事はまさにその延長線ですね。

入社15年目になりますが、入社以来、当社が誇る水処理装置の一つ、超微細気泡散気装置（エアロウイング）専門で業務を行ってきました。まずは国内の提案営業や技術的なアフターフォローから始まり、その知識・経験を生かして、国を飛び出しアメリカの販売パートナーのサポート、オーストリアでの開発業務など、内容も国も幅広い業務に携わってきました。

■製品の専門家として

提案営業は、当社製品の導入効果などの技術的なPR資料を作成し、提案を行う業務です。アフターフォローでは、実際に製品を現場に納入した後の導入効果を調査して、お客さまに省エネ効果を確認していただきます。

アメリカにおける散気装置の販売パートナーに対しては、彼らの営業活動を支援すべく製品の技術的な解説や受注に向けた提案資料の作成を行いました。目に見える価格ではなく、当社の製品が強みとする省エネ性や長寿命性を含めたライフサイクルコストの重要性をアピールします。実際に、アメリカで私が提案に関わった案件で受注獲得できたと報告を受けた時は、とてもやりがいを感じましたね。

■海外での活躍を当たり前に

入社前は自分が国外で働くことになることは想像していませんでしたが、入社後、国外でも実績の多いエアロウイングの存在を知り、自分も国を越えて貢献できる仕事がしたいと思いがどんどん強くなっていきました。語学力に自信があったわけではないですが、私の熱意に対して会社が後押しをしてくれたことで多くの経験ができました。

実際、国外勤務を通じて、「重要なのは当社の製品や技術の知識であり、語学力はあくまでツールでしかない」と知れたことは大きかったです。

学生の皆さんには、たくさん外に出て経験をしてほしいなと思います。ユニークな経験が突然武器になると思うので、周りがあまり経験していないことをやってみるのも良いかもしれません。

「自分で考える力」を養う

三水コンサルタント
東日本事業本部
技術第二部首都圏グループ
松浦 悠さん

■下水道と維持管理に興味

高校生のころから漠然と水に関わる仕事がしたいと考え、大学では土木工学科を専攻しました。大学の講義で「これからの時代は維持管理が重要である」と考えるようになり、水インフラの維持管理に関わることができる仕事を自然と意識するようになりました。

就活期にさまざまな会社の説明会へと参加する中で、下水道分野において維持管理の取組みが盛んに進められていることを見聞きしていた折、大学OBである当社社員から上下水道コンサルタントの仕事の話を伺い、「下水道×維持管理×コンサルタント」という切り口のイメージを持てたことが進路決定の大きな要因になったように思えます。

当社は上水道・下水道・工業用水道と幅広く水インフラに携わっていますが、中でも下水道関連業務の比率が高く、やりたいことでも合致していたことも志望する決め手となりました。

■考える力を養う

入社2年目ですが、管路の実施設計を行う部署に所属しています。まずは先輩社員の下でいろいろなことをオンジョブで覚えていきます。設計条件は現場ごとに千差万別なため、自分でやりながら覚えるという主体性、そして「自分で考える力」を養うことが求められます。そのため、先輩社員に付きっきりというよりは、課題や壁にぶつかったらその都度相談するような形になりますが、わからないことがあれば手厚くサポートしてくれますし、基本的な業務の流れ等ははじめにレクチャーしてくれますので安心感がありました。

昨年手がけた設計業務の工事がこれから進められますので、自分が手がけた仕事が形となるのを見届けるのが今の楽しみですね。

■仕事も就活もまずは現場へ

業務の進め方としては発注者のところに通い、「こうしたことも折り込めないか」「コスト面で折り合いが付く方法はないか」といった要望を聞き解決策を考えてみたり、実際に自分が設計した工事の事前調査に立ち会うなど、積極的に外部の人達に関わりに行くことが多いです。発注者も工事業者も納得していただける仕事をするには常日頃からのコミュニケーションが大事です。

担当することの多い管路の更生・耐震化工事の設計については、現場に既にあるものを改良・改築するため、机上でというわけにはいきません。「煮詰まらないようなら、気分転換に現場を見ておいで」との先輩のアドバイスの通り、コンサルタントも現場主義です。

就活についても実際に会社という現場で見聞きしたほうが理解が進むこともあるので、ぜひ当社のインターンシップを利用してもらえたらと思います。

やりがいの先の学びを

水機テクノス
環境メンテナンス事業部
技術部 設計2グループ 主任
石原 憲さん

■機械修繕の設計とは

大学では土木環境工学のゼミに所属しており、教授の紹介で水機テクノスの入社試験を受けました。「浄水場の機械を直したり、動かしたりする仕事」ということで、現場に出向く機会が多いのかなと思っていたのですが、私が所属する設計部門はデスクワークが中心です。

機械メンテナンスの設計は大きく2段階に分かれます。1段階目は工事が発注される前の「積算」で、機械の不具合や経年劣化のご相談を受け、必要な人数・時間・部品などから費用を見積もっていきます。2段階目が受注後の業務で、設計図を書き、施工業者さんや各種材料を手配し、工事の完成書類を納めるまでを担当します。状況確認のために現場に足を運ぶことも少なくないですし、場合によっては新しいものに取り替える「更新」も提案します。

■関係者との対話で

図面通りの機械が現場で動く様子を見るのは嬉しいもので、やりがいはなと思います。中でも小さな浄水場で一通りの設備更新を上司と担当した時は、完工時に「施設を丸ごとつくったんだ」という達成感がありましたね。

知識や段取り力がついてきた一方、今も学ぶべきことは多いです。例えば最近では、国のルールが変わったこともあり、紫外線処理設備の設計が多くなっています。目の前の業務を大切にしつつ、大きな動きや新技術を理解し、先につなげていかなくてはと考えています。

もう一つ、やはりコミュニケーション能力は大切です。機械の修繕一つをとっても、自分一人でわかることには限りがあります。お客さまのニーズを把握できていないと見当違いの設計になりますし、工事費の積算や、施工しやすい設計のためには施工業者さんとの話し合いが不可欠です。自分の考えを押し付けず、まずは人の話をきちんと聞くように心がけているところです。

■勉強して損なし

仕事をしていれば、どんな方も何かしら失敗すると思います。私も数えきれないほどの失敗をして、そのたびに上司や先輩に助けられてきました。その点、風通しが良く、むやみに上下関係が厳しくない会社で良かったなと思います。

最後に、理系の科目、特に土木や機械、電気などを学ぶ機会のある方は、勉強しておいて損はありません。基礎知識が思わぬところで必要になるので、教科書を取っておくことをお勧めします。

おかげさまで70周年
水と環境のConsulting＆Software
NJS
公益社団法人 全国上下水道コンサルタント協会会員
株式会社NJS
代表取締役社長 村上 雅亮
〒105-0023
東京都港区芝浦1-1-1 浜松町ビルディング14階
TEL：03-6324-4355 FAX：03-6324-4356
https://www.njs.co.jp/

水と環境の創生コンサルタント
NSS 日本水工設計
ずっともっと水とともに。
積極採用中!
インターンシップ受付中
←エントリーはこちら
（公社）全国上下水道コンサルタント協会会員
日本水工設計株式会社
代表取締役社長 本名 元
本社：〒104-0054 東京都中央区勝どき3-12-1
TEL.03-3534-5511 FAX.03-3534-5534
支社：東京・名古屋・大阪・広島・九州
https://www.n-suiko.co.jp